

奥平

長篠から中津へ

▼鳥居強右衛門脱出の図



奥平神社蔵
中津城保管



▲奥平信昌 (1555-1615)
自性寺蔵

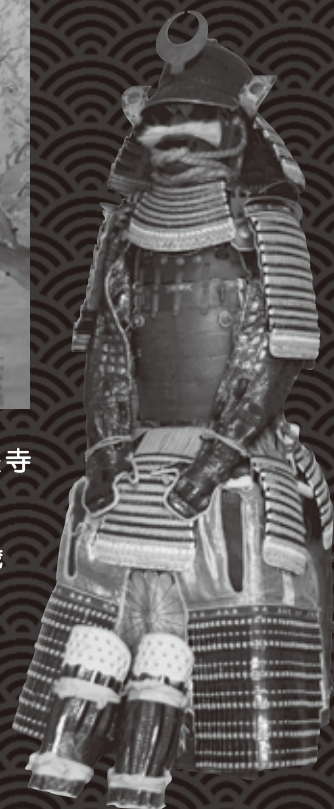


◀新城での奥平家の菩提寺
増瑞寺開山
梅心宗鉄禅師 (白隠筆)
自性寺蔵



▲亀姫 (1560-1625)
自性寺蔵

長篠城出土の矢根 ▶
奥平神社蔵
中津城保管

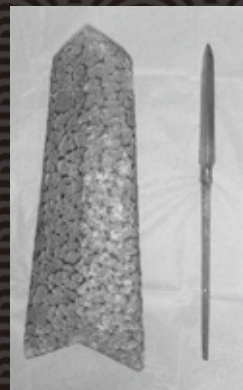


▲桶川二枚胴具足
黒瀬家蔵

天正3年(1575)、長篠・設楽原の戦いで武田軍からの猛攻から長篠城を守り抜いた奥平信昌。彼は家康の長女亀姫を娶り、徳川家を支える一族となりました。江戸時代、九州の要でもあった豊前中津藩 10万石の大名として、徳川幕府を支え続けました。幕末には、開明的な藩主を次々に輩出し、中津藩から大勢の蘭学者・蘭方医が誕生しました。その中から、中津藩医前野良沢は『解体新書』の刊行に携わるなど、大きな功績を残しました。その息吹がやがて明治時代に『学問のすすめ』を刊行した福沢諭吉へと引き継がれていきます。今回、奥平家、中津城、自性寺、中津歴史民俗資料館、村上医家資料館、大江医家資料館、黒瀬氏、今泉氏のご協力により長篠から中津へと伝えられていった奥平家の功績をご紹介します。

長篠城籠城武士 もんど 林主水家の足跡

長篠・設楽原の戦いで戦没者が極めて多いことを嘆き武士をやめ、医王寺に仏弟子として入門し、戦没者の冥福を弔う奥平家臣がいました。その名を「林主水」、出家後は「心庵宗祥」と名乗り、天正18年(1590)、奥平家が上野国へお国替えになると、高僧に出世して奥平家から深く帰依されました。また、主水から数えて15代目の林橘作は、先祖のことを良く調査し、明治の新城町郷土史家「皆川登一郎」と交流があり、皆川から奥平家の情報提供を受けました。特別展では林家のご協力により、武士から僧になった心庵禅師と末裔の林橘作の生き方を紹介します。



▲傳長篠籠城戦
使用の鏑の穂先